

社会福祉法人 駿河厚生会

地域密着型介護老人福祉施設 柏葉尾苑

## 令和5年度 第5回 運営推進会議

令和6年1月26日（金）14：00～

1. 開会の挨拶
2. 事業所の概要説明
3. 入所者状況の報告
4. 活動状況の報告
5. ユニットリーダーから
6. その他ご意見、ご要望、助言等
7. 閉会の挨拶

<事業所の概要> ※重要事項説明書より抜粋

事業者の概要

開設者の名称	社会福祉法人 駿河厚生会
主たる事務所の所在地	静岡県沼津市大岡 3 5 7 1 番地の 1
電話番号	0 5 5 - 9 2 6 - 8 5 0 0
法人の種別及び名称	社会福祉法人 駿河厚生会
代表者職	理事長
代表者氏名	河野 義文

施設の名称	地域密着型介護老人福祉施設 柏葉尾苑 (かしぼおえん)
施設の所在地	静岡県沼津市大岡 3 9 4 7 番地の 1
電話番号	0 5 5 - 9 5 5 - 8 7 7 7
施設長名	河野 義文
介護保険事業所番号	2 2 9 1 1 0 0 4 8 1
事業種別	指定地域密着型介護老人福祉施設入所者生活介護
開設年月日	令和 5 年 4 月 1 日
定員	2 9 名
交通の便	J R 沼津駅からタクシーで 2 0 分 バス停「マーレ沼津工場前 (北小林)」より徒歩 2 0 分

(注) 当施設「柏葉尾苑」は、介護老人福祉施設「沼津フジビューホーム」(沼津市大岡 3 5 7 1 番地の 1) を本体施設とし、本体施設との密接な連携を確保しつつ、本体施設とは別の場所で運営されるサテライト型居住施設です。

職員数

職種	員数	勤務の体制	
施設長	1 人	常勤 1 人 (本体施設との兼務)	
生活相談員	1 人	常勤 1 人	非常勤 0 人
看護職員	1 人以上	常勤換算 2 人	
介護職員	9 人以上	常勤換算 16 人 (うち、1 人以上はユニットリーダー)	
管理栄養士	1 人	常勤 1 人 (本体施設との兼務)	非常勤 0 人
機能訓練指導員	1 人	常勤 0 人	非常勤 1 人
介護支援専門員	1 人	常勤 1 人	非常勤 0 人
調理員	(株)クリエイティブ食彩倶楽部 委託給食です。 住所：富士市伝法 114-9 TEL : 0545-221-1055		

<入所者の状況>

入所者の要介護度・年齢（令和5年11月24日～令和6年1月25日）

利用者数		要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	人数計
65歳未満	男	0	0	0	0	0	0
	女	0	0	0	0	0	0
65歳以上 75歳未満	男	0	0	1	1	0	2
	女	0	0	0	1	1	2
75歳以上 85歳未満	男	0	0	0	0	2	2
	女	0	0	2	2	0	4
85歳以上 95歳未満	男	0	0	4	0	0	4
	女	0	0	5	3	1	9
95歳以上	男	0	0	0	1	0	1
	女	0	0	2	3	0	5
人数計		0	0	14	11	4	29

令和6年1月25日現在

◎平均介護度 3.66

◎平均年齢 86.3歳（男性83.2歳・女性87.8歳）

入院 0名

退所 0名

入所 0名

<活動状況の報告>

行事

1月1～3日（月～水）

新年会（書き初め）

12月22日（金）  
クリスマス会



研修

研修内容	実施月	参加対象者	場所
ノーリフティングケア (内部研修)	令和5年12月 令和6年1月	介護職員	フジビューデイルーム
認知症介護 実践リーダー研修	令和5年12月5日 令和6年1月11日	介護職員1名	シズウエル
高齢者権利擁護推進事業 看護実務者研修	令和5年12月8・9日	看護職員1名	ZOOM
LIFE研修	令和5年12月10日	介護支援専門員	シズウエル
感染症・看取り・身体拘束・ 高齢者虐待についての研修 (内部研修)	令和5年12月13日	全職員	フジビューデイルーム
新人考課者訓練 (内部研修)	令和5年12月15日	介護職員2名 看護職員1名	フジビュー地域交流室
ユニットリーダー研修 実地研修	令和6年1月9～11日	ユニットリーダー	特別養護老人ホーム しょうじゅの里 三保
法人理念研修 個人情報保護について (内部研修)	令和6年1月10日	全職員	柏葉尾苑地域交流室 (ZOOM)
身体拘束廃止推進員養成研修	令和6年1月12日	介護支援専門員	シズウエル
第一次考課者訓練 (内部研修)	令和6年1月18日	生活相談員 介護支援専門員 ユニットリーダー	フジビュー地域交流室

## ヒヤリハット

- ◎朝方、眠りスキャン作動。訪室すると床に敷いてある衝撃吸収マットの上に座っているのを発見する。トイレに行こうとご自分で車椅子に移ろうとしたご様子。
- ◎12：45 部分義歯（上）が未装着のまま、昼食を食べさせてしまったことを、昼食後の口腔ケア時に気づく。上の自歯 1 本で義歯を支えている状況の方で、義歯をせずに食事をする、ぐらついている自歯にかなりの負担をかけてしまうことになるため、食事前には必ず義歯が装着されていることを確認するよう徹底している。
- ◎入浴時、浴槽から出て脱衣所に向かう際、片手はつないで歩いていたが、もう片手でバスタオルを取ろうとし、職員がよろけてしまう。手をつないでいたため、一緒に倒れそうになってしまったが、他の職員が支え、転倒にはならなかった。ながら作業をしないよう、必要なものは先に準備し、誘導時は歩行に専念する。
- ◎入浴後、着替えを終え、ストレッチャーから車椅子に移る。その際、車椅子の右側のアームサポートを跳ね上げて移乗する。移乗を終えた時点でアームサポートを下げなくてはならないが、下げずにユニットのリビングまで介助で移動してしまった。慌ただしい中でも、丁寧に対応するよう意識する。

## インシデント

- ◎10：30 入浴後、着衣も終え、車椅子の座り直しをするため、ご本人の後ろから介助する。ご本人の両上肢を持ち上げた際「痛い」と言葉あり。確認すると、右腕のかきぶたのところが 4 ミリ程度剥がれかかり、出血している。ご本人の全身の皮膚状態について把握し、よりご本人が安全な方法（1 人介助ではなく 2 人介助で行う、持ち上げずにスライディングシートで滑らす等）で正しい姿勢になるよう対応する。
- ◎13：50 リビングのテーブルの上に置いてあったクーピーケースを開け、手に取っている。職員が他入所者様の対応のため、10 秒ほど目を離し、再び様子を見た時には口をモグモグしている。近寄り手をとるとクーピーの削りカスを指でつまんでいる。唇には削りカスが付着している。クーピーの長さから、量的には口に含んではないと思われるが、鉛筆削りはケースから出し、別に保管することにする。
- ◎16：15 独歩の方が、他利用者様の歩行器を動かそうとして、しりもちをついてしまう。歩行器が通り道に置いてあったため、歩行の妨害になってしまった。通り道に歩行器など、物を置かないよう周知する。
- ◎9：20 リビングで「うわー」という声と共にドスンという音が聞こえる。職員が振り向くとしりもちをついて座っている。駆け寄り、痛みの確認を行うも、痛みの訴えなく、ご自分で立ち上がる。近くの椅子に座ってもらい、外傷確認行うも見当たらず。昨夜、ほとんど睡眠とれず、覚醒していたことについて申し送りがあったが、見守りを怠ってしまった。今後、そのような場合には、付き添い歩行を意識するよう周知する。

<p style="text-align: center;"><b>会 議 録</b></p>	<p>日時 令和6年1月26日(金) 14:00~15:00</p>	<p>場 所 柏葉尾苑 地域交流室</p>	<p>記 録 手塚</p>
<p>会議名 令和5年度 第5回運営推進会議</p>	<p>参加者 門池地区連合自治会長 社会福祉協議会企画委員長 駿河厚生会 理事 かどいけ地域包括支援センター職員 柏葉尾苑施設長 河野義文 生活相談員 手塚春菜 ユニットリーダー 山本拓真</p>		
<p style="text-align: center;"><b>議 題</b></p>	<p style="text-align: center;"><b>内 容</b></p>		
<p>1. 開会の挨拶</p> <p>2. 入所者状況の報告</p> <p>3. 活動状況の報告</p>	<p><b>【河野】</b> 「柏葉尾苑も丸1年が経とうとしている。皆様のおかげで、特に大きな問題もなく、穏やかに過ごせたと思う。職員の離職も想像していたより少なく済んだ。介護DXにも力を入れている。今後も、取り組んでいきたい。」</p> <p>※レジメ3ページ目参照。 手塚「前回の運営推進会議から、入退所も入院もなく、大きな変化はない。」 A委員「前は、コロナとかの報告があったけど、今回はない？」 手塚「お蔭様で、前回報告させてもらったコロナ以降、1件も発生していない。入所者の皆さんも職員も落ち着いている状況で助かっている。」 A委員「巷では、すごい感染状況らしいが、素晴らしいですね」</p> <p>※レジメ4ページ目参照。 <b>【行事】</b> 手塚「12月にはクリスマス会、1月には新年会と、季節らしい行事を行った。入所者の皆さんの笑顔も多く、今後も継続していきたい。」</p> <p><b>【研修】</b> 手塚「この2か月で参加させてもらった研修を挙げている。」 A委員「人材育成という部分でも、駿河厚生会はすごいと思うが、この数の研修ってなかなか無いと思う。」 手塚「外部研修についてはZOOMではなく、集まったり、実際に現場に行くことが増えている。実際にユニットリーダー研修では、他施設まで行った。」 山本「実際に、神奈川県にある三保の施設に行かせてもらった。その施設は、ユニットケアで170床の施設だった。スタッフが120名くらい在籍していて、そのうち40名程度は外国人。人材不足を物語っている。」</p>		

<p>4. ユニットリーダーから</p>	<p>その施設は、ユニットケアとして長い経験があるところで、3日間利用者様の立場で過ごす、という体験をしてきたが、個別ケアを大切にしていると感じた。例えば、排泄のタイミングも時間で一斉に連れて行くのではなく、個々のタイミングをしっかりと把握し、誘導していた。また、寝たり起きたりするのも自由で、ご本人がしたいタイミングでケアをしていた。柏葉尾苑でも、そんなケアが出来るよう、研修で学んだことを取り入れていきたい。」</p> <p>A 委員「日進月歩で、学んだことを実際に施設に持ち帰り、実践することが大切だと思う。駿河厚生会は、職員に力を入れているのが分かる。この法人理念研修もそうですね？」</p> <p>河野 「そうです。令和6年度の目標を各事業所で決めるのに、出来る限り職員に参加してもらい、話し合いをしてもらっている。」</p> <p>A 委員「その場を作る、ということ自体がすごいと思う。」</p> <p>【ヒヤリハット】 4件報告。</p> <p>【インシデント】 4件報告。</p> <p>※別紙『排尿のタイミングをお知らせD Free①』参照 ※実際の機器を参加者の皆様にご覧いただく。</p> <p>山本「D Free という排尿のタイミングを教えてくれる機器の導入をした。膀胱にどのくらい尿がたまるのかを教えてくれる。これには、『出たかも通知』『出るかも通知』という設定があり、それらを活用し、自立した排泄を目指すもの。今までは、オムツを使用している人の排泄状態を確認するために、毎時間オムツを開かないと出たかどうか分からなかった。しかし、これを使うと、オムツを開かなくても、膀胱の中が分かるので、毎時間オムツを開く必要がなくなる、といった例がある。実用していくために、2月にD Freeについての研修を2日間に分けて行い、3月に実施していく予定。また、それまでに、どなたにどのように使用していくか検討している。D Free は在宅でも活用できる。例えば、トイレが近いから外に出るのが怖い、とどこにも外出しようとしないうちの方において、実際に膀胱内を可視化することで、本当にたまっているのか分かるし、ご本人も安心できると思う。他にも、ご家族が介護しているが、トイレのタイミングが分からず所構わず放尿してしまう、なんていう困り事があると思う。膀胱の中にたまっていることが分かれば、トイレに連れて行くタイミングが分かることになる。また、柏葉尾苑では眠りスキャンを導入しているため、今</p>
----------------------	---

<p>5. その他ご意見、ご要望、助言など</p>	<p>のところ活用は考えていないが、起き上がりの通知もある。」</p> <p>※別紙『排尿のタイミングをお知らせ D Free②』参照</p> <p>山本「以前、2週間のトライアルを行った。その時の資料になる。ヒヤリングから始まり、結果や提案まで企業のスタッフさんからいただけるので、ご家庭で、介護経験ない方にはより助かるのではないかと思う。」</p> <p>河野「機器を導入しても、使いこなせないと意味がない。自立支援のため、オムツを外し、トイレで排泄していくことを目指す。」</p> <p>B 委員「データは何かに表示されるのか？」</p> <p>山本「iPadの方にデータは表示されるが、記録とは連動していない。」</p> <p>A 委員「あっちもこっちもで、全部が一本化してくれると助かるのに。」</p> <p>山本「はい。実際に、入所者様全員の排泄状況を調べるとなると、すごい時間を要する。D Freeだと1~2週間で確実にデータが取れるので、すごいと思う。」</p> <p>C 委員「うちの隣の奥さん、膀胱がんで亡くなったが、オムツやパッドをすごい量使っていた、と聞いた。こういうものがあれば、そのコストも抑えられたと思う。」</p> <p>A 委員「人材育成とともに、こういった設備投資も必要。先駆けはいいことだが、2~3歩前に行ってしまうと、研究対象になってしまうかもしれないから、気を付けないといけない。」</p> <p>河野「令和6年4月から介護保険法の改正があり、様々な加算が見直される。ICTを取り入れていけば新しい加算にもつながる。」</p> <p>A 委員「DXの福祉版ですね。」</p> <p>河野「介護業界の流れからすると、そういうことかな、と思う。以前の介護は、職員の手がたかさんないと出来なかったが、DXを取り入れて科学的介護をすすめていくことで介護の負担の軽減にもなる。」</p> <p>A 委員「ロボットからAIに置き換えられていくように、データは機械に任せるなど、任せられる所は任せて、これからの違った福祉を。人材の採用についても変えていかなくてははいけませんね。」</p> <p>河野「人材の確保についても、若い人は、設備が整っている施設を選んでいると考える。」</p> <p>A 委員「外国人労働者も仕事として、日本で介護しようとする人がいなくなってきている。もっと賃金がいい国に行ってしまうている。」</p> <p>河野「今回の法改正で、0.98%介護職員の給料を上げろと言っているが、実際に難しい。」</p> <p>A 委員「こういった機器を取り入れてオムツなどの消耗品の削減が、SDGsにもつながっていく。なかなかここ(DFree)まで手が出せない。思っ</p>
---------------------------	---



6. 閉会の挨拶	<p>河野「柏葉尾苑は、比較的若い職員が多いので、パソコンとか機械に抵抗がない。」</p> <p>A 委員「やっていること、やった事実を発信していくことも大切。」</p> <p>次回、令和6年3月19日（火）13：00～開催予定。</p>
----------	---